

【第2回地域eパスポート研究協議会】



2-2-3 学習成果を社会に生かす仕組みの構築

(1) 地域人材としてのeパスポートの発行

認定を受けた市民講師には、地域eパスポートの発行と合わせて、生涯学習機関である富山県民生涯学習カレッジの人材データベースへの登録を行った。写真や映像等、様々な表現により、従来の文字情報による紹介と比べ、人材についてははるかにわかりやすくイメージしやすいよう、人材情報を提供することができる。

この人材データベースは、富山県内の公民館や社会教育施設が広く活用する富山県の中核的な情報提供の役割を果たしている。

活動機会の紹介、eパスポート所持者からの問い合わせに対応し、地域人材の活動機会に結びつくよう、以下のようなマッチング体制の整備を行った。公民館の活動を総合的に推進する富山県公民館連合会、地域の社会教育事業をコーディネートする富山県民生涯学習カレッジ、および富山インターネット市民塾の3者による連携した支援を実施する体制としている。

【地域eパスポート】



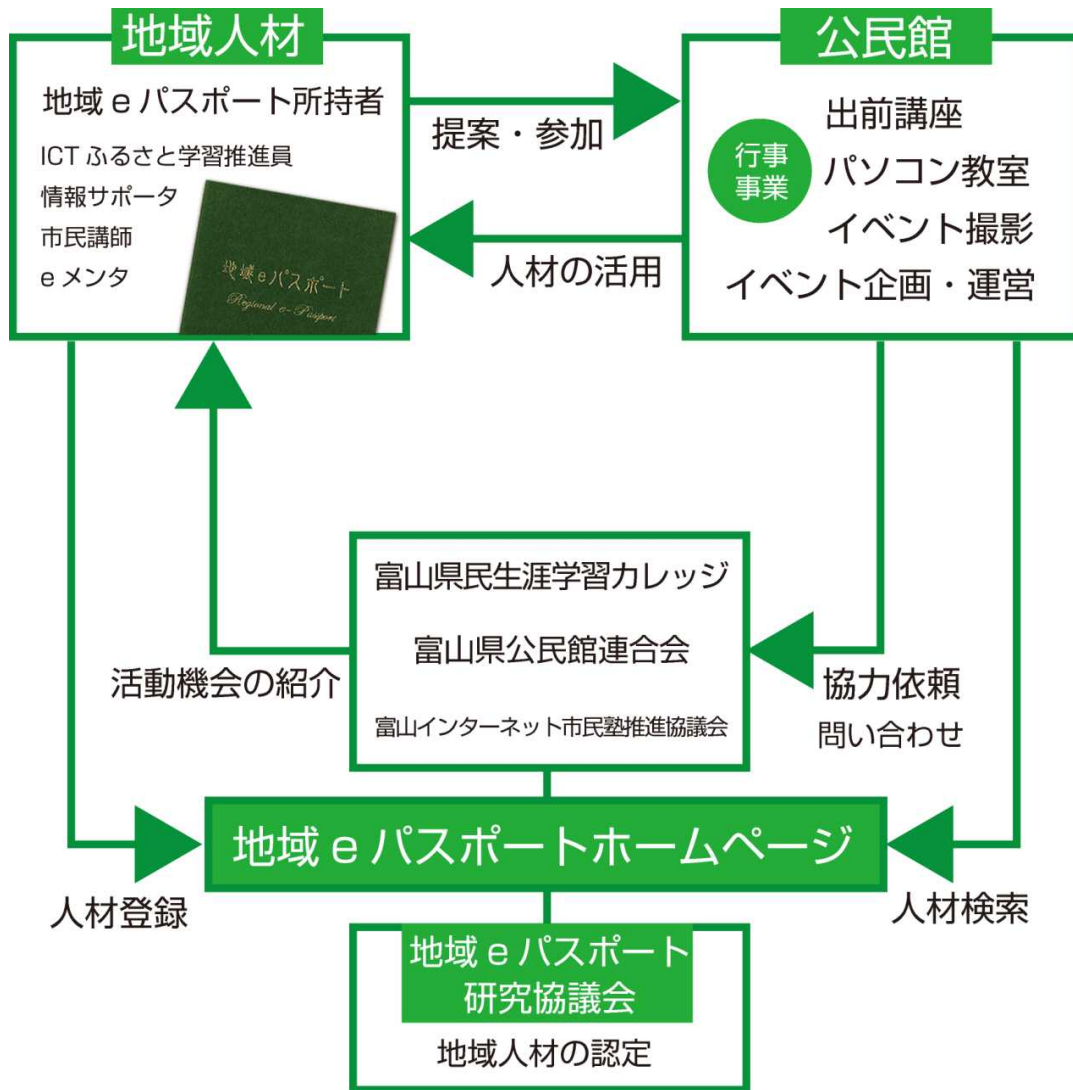


図7 地域eパスポート連携図

地域人材の認定や地域 e パスポートの発行について、地域に浸透させるため、地域 e パスポートホームページを開設し、普及啓発を図ることとした。

地域 e パスポート

Official website

地域eパスポート研究協議会

ホーム
地域 e パスポートとは？
発行までの流れ
照会方法
お問い合わせ



地域 e パスポートで
富山をもっと元気に！

地域 e パスポート照会

e/パスポート番号
 -

支援機関コード

照会
照会方法を見る

地域 e パスポートを
お持ちの方



地域 e パスポートを
お持ちでない方



学習支援機関の方
人材をお探しの方



地域人材照会

▶ キーワードで探す
 照会

▶ 専門分野で探す 分野選択

お知らせ

2013.03.19	市民講師 2名 / 情報サポーター 3名認定
2013.02.21	ICTふるさと学習推進員 3名 / 市民講師 9名認定
2012.09.19	ICTふるさと学習推進員 8名認定
2012.06.08	ICTふるさと学習推進員 7名 / シニアeメンタ 2名 / eメンタ 4名登録
2012.06.08	地域eパスポート オフィシャルWebサイト開設

地域 e パスポートとは？

- 「地域eパスポート」は、さまざまな分野・テーマにおける優れた人材を認定し、地域活動への参加や新たな事業の創造などの機会を支援することにより、富山の発展、地域の活性化に寄与するものです。
- 自らの学習や活動の成果を地域社会に積極的に役立てようとする意思と目標を持ち、十分な学習歴や活動歴が認められる方を地域人材と認定し、「地域eパスポート」を発行しています。
- 「地域eパスポート」は地域人材としての本人確認（写真等）ができるパスポート




URL : <http://toyama.shiminjuku.com/epassport/> (富山)
<http://wakayama.shiminjuku.jp/epassport/> (和歌山)

地域 e パスポートホームページは、富山県民生涯学習カレッジの人材データベースと、以下の
ように連携している。



「地域 e パスポートホームページ」地域人材照会画面での検索結果



「とやま学遊ネットホームページ」人材情報検索（講師・指導者）画面での横断検索結果



登録いただいた講師・指導者についての住所・電話番号等の連絡先情報はプライバシー保護のため、インターネット上では公開していません。連絡先情報や、登録者以外の講師・指導者情報が必要な場合は、学習相談窓口にご相談ください。

学習相談窓口へ

よみがな	とやま じゅうじょう
講師・指導者名	市民 太郎
性別	男
居住市町村	立山町
ホームページ	http://toyama.shiminjuku.com/ 市民塾 自己PRシート
指導可能分野	地域 e パスポート 自然科学一般 郷土関係
活動可能時間	活動時間(は9時から20時まで、ボランティア関係)
活動可能地域	県内全域

指導可能テーマ・活動歴一覧

活動例、プロフィールなど

富山インターネット市民塾で「立山カルデラ砂防探究会サークル」を集め活動している。(立山カルデラ砂防博物館友の会会員)

No.	活動年月	講演会名
1	平成24年9月	こぶし会富山支部可窓会講演

「とやま学遊ネットホームページ」人材情報詳細画面では、「地域 e パスポートホームページ」の地域人材当該ページへのリンクが表示

(2) プロフィールシート、認定バッジの発行

【認定バッジ】

今回認定を受けた市民講師には認定バッジが電子的に交付され、自身が開催する講座の紹介ページ等に表示される。地域人材は、地域で新しい活動を行う人材として、富山県生涯学習カレッジ、富山県公民館連合会、富山インターネット市民塾の3者がともに認めた人材であり、その証としてバッジを交付することにより、人材について地域等へ告知するものである。

認定バッジをクリックすると、地域eパスポート研究協議会による認定の事実が表示される。

【平成25年度】立山カルデラ・砂防探求会 【ふるさと塾】

⇒ 講座紹介 ⇒ 講座の感想・おすすめ ⇒ スクーリング情報

申し込み受付中です

【ふるさと塾】

【平成25年度】立山カルデラ・砂防探求会

世界一のスイッチバック(トロッコ)乗車体験！

今年は立山カルデラ砂防体験学習会でも人気のトロッコ乗車体験を予定。砂防工事用資材と作業員を運ぶ重要な手段トロッコはカルデラの安全を保持してきた立役者です。立山カルデラ砂防探求会では取材に基づいた教材を使った事前学習と現地に足を運び肌で感じるスクーリングでカルデラの魅力に迫り、立山の自然文化を学びます。

*** 講座アピール**

年に一度は現地に足を運んで、目と肌で体験します。(スクーリング)

スクーリングは立山カルデラ砂防博物館主催の「立山カルデラ砂防体験学習会」に各自が個別に応募します。人数が限定されるため定員オーバーの場合抽選となる場合があります。応募手引書はサークルの掲示版に掲載します。

トロッココースは人数(最低10名)がまとまれば、団体でのツアーを企画します。

*** 講座詳細**

ジャンル ふるさと塾、25年度講座

先生の紹介





開講期間 2013年04月01日～2013年12月31日

申込期間 2013年03月31日～2013年06月30日

定員 20名

受講料 無料

【認定バッジ 地域人材についての説明表示】

*** 講座詳細**

ジャンル ふるさと塾、25年度講座

先生の紹介





【地域人材:市民講師】
自らの経験や知識・技術を伝承する講座を企画し、インターネットを活用した学びの場をとおして、地域課題の解決や地域コミュニティの活性化に寄与する地域人材として認定します。
[地域eパスポート研究協議会]
<http://tovama.shiminiuku.com/epassport/>

開講期間 2013年04月01日～2013年12月31日

申込期間 2013年03月31日～2013年06月30日

【プロフィールシート】

地域人材として認定を受けた市民講師は、自身が開設する講座ページに、自己 PR シート内容をより分かりやすい形式としたプロフィールシートとして掲載することができる。プロフィールシートは自己 PR シートで示した成果や目標などに写真などの画像も加えた形で作成することができ、これを自身の講座ページにて掲載することで、講座の PR に役立てることができる。

プロフィールシート		市民太郎	2013.03.20
立山カルデラの自然の麗麗と砂防の歴史を学ぶ 魅力ある自然文化を数多く保有する我が郷土、特に立山黒部アルペンルートは世界遺産登録への運動も盛り上がり、自らも講師活動を通して立山カルデラと砂防の魅力も伝え共有することで、この運動に少しでも貢献寄与したい。また子ども達や地域住民に向けた講演の機会を作るべく活動をPRして身近な自然から学びを広げていきたい。			
プロフィール 地域人材認定： 市民講師 (2013.03.01) 地域eパスポート研究協議会		3年目を迎える立山カルデラ砂防探求会 今も続く砂防事業は富山平野に暮らす私達を災害から守っています。その恩恵を実感し富山県人の誇りを持ってもらいたく始めた講座では立山カルデラの自然、歴史を学び砂防工事の前後を見学する体験学習会に参加してきました。過去2年で一緒に学んだ30名の方と共に立山カルデラへの関心を更に深め、探求する楽しみを共有することが出来ました。	
富山県立山町出身。工学系の大学を卒業後、地元の電気機械会社に勤務。2012年3月に定年退職するまで、電気機械の設計業務、品質管理、安全衛生、その他社内教育等に従事する。退職後はボランティア活動とインターネット市民監の講師として専念。20013年1月より企業コンサルタントとして、安全、作業品質と作業標準書の作成指導に従事現在に至る。			
講師歴 (富山インターネット市民監講師) : 2010 : 「実務書道講座」「QC7つ道具」 2011 : 「立山カルデラ砂防探求会」 「かな講座基礎編」「新QC手法講座」 2012 : 「立山カルデラ砂防探求会」 「QC講座基礎編」「立山研究会」		世界一のスイッチバック「トロッコ」乗車体験! 今年は立山カルデラ砂防体験学習会でも人気のトロッコ乗車体験を予定。砂防工事用資材と作業員を運ぶ重要な手段トロッコはカルデラの安全を保持してきた立役者です。立山カルデラ砂防探求会では取材に基づいた教材を使った事前学習と現地に足を運び肌で感じるスクーリングでカルデラの魅力に迫り、立山の自然文化を学びます。	
資格・活動: <ul style="list-style-type: none">・富山インターネット市民監講師・ICTふるさと学習推進員・日本科学技術連盟QCサークル指導士・QCサークル北陸支那富山地区OB幹事・東京書道協会実務書道師範・日本書道協会連綿教室講師・労働安全衛生コンサルタント・財団法人花と緑の緑行指導員 (GK)・立山カルデラ砂防博物館友の会会員		本講座を主催するにあたり スクーリングでの実地体験の効果を大きくするために、事前学習となる教材に音声や動画を取り入れて充実を図ります。また掲示板での話題の提供や運用に気を配り交流を促進していきます。受講生の中から幹事役を設け運営体制を強化します。これらを通じて受講生の関心を高めスクーリングへの参加を促し満足度の向上に繋げます。	
趣味: 山歩き、園芸、囲碁、書道			

(3) 学習成果を生かした講座等の開催による地域活動

地域 e パスポートを取得した市民講師 11 名（富山）は、ティーチング・ポートフォリオを活用した講座企画を経て、富山インターネット市民塾にて平成 25 年度の講座を開講した。

【市民講師開設講座一覧】（富山）

	市民講師	講座名	カテゴリー
1	市民講師 A	気軽に天文写真を楽しもう	自然科学
2	市民講師 B	立山カルデラ・砂防探求会	ふるさと
3	市民講師 C	世界遺産を歩く～海外旅行も自分流	ふるさと
4	市民講師 D	「お祭り」わっしょい倶楽部～放生津の曳山祭りを体験しよう～	ふるさと
5	市民講師 E	女子力アップ☆彩り講座	ライフアップ
6	市民講師 F	なりたいあなたになるための 片付けコーチング	ライフアップ
7	市民講師 G	越中の昔話を富山弁で味わおう	ふるさと
8	市民講師 H	御朱印の魅力 ～心のやすらぎを求めて～	文化芸術
9	市民講師 I	中世越中史と城館伝承～わが町・村の知られざる歴史探訪	ふるさと
10	市民講師 J	セルフ・カウンセリングによるコミュニケーション法を学ぼう	ライフアップ
11	市民講師 K	自然の中で笑顔あふれる ミラクルアートセラピー体験	親子

わかやまインターネット市民塾では、平成 25 年度に以下の講座を開講または開講準備中である。

【市民講師開設（予定）講座一覧】（和歌山）

	市民講師	講座名	カテゴリー
1	市民講師 L	(仮)伝えたい、和歌山ごはん 続編	ふるさと塾
2	市民講師 M	プランターでキッチンガーデン Part1 ベビーリーフ編	農業講座
3	市民講師 N	(仮)化学物質過敏症について	ライフアップ塾
4	市民講師 O	(仮)オーガニック講座	ライフアップ塾
5	市民講師 P	聴くから始めるコミュニケーション講座 続編	ライフアップ塾
6	市民講師 Q	産消提携から見える私たちの未来	自然塾
7	市民講師 R	(仮)陶芸教室	ライフアップ塾

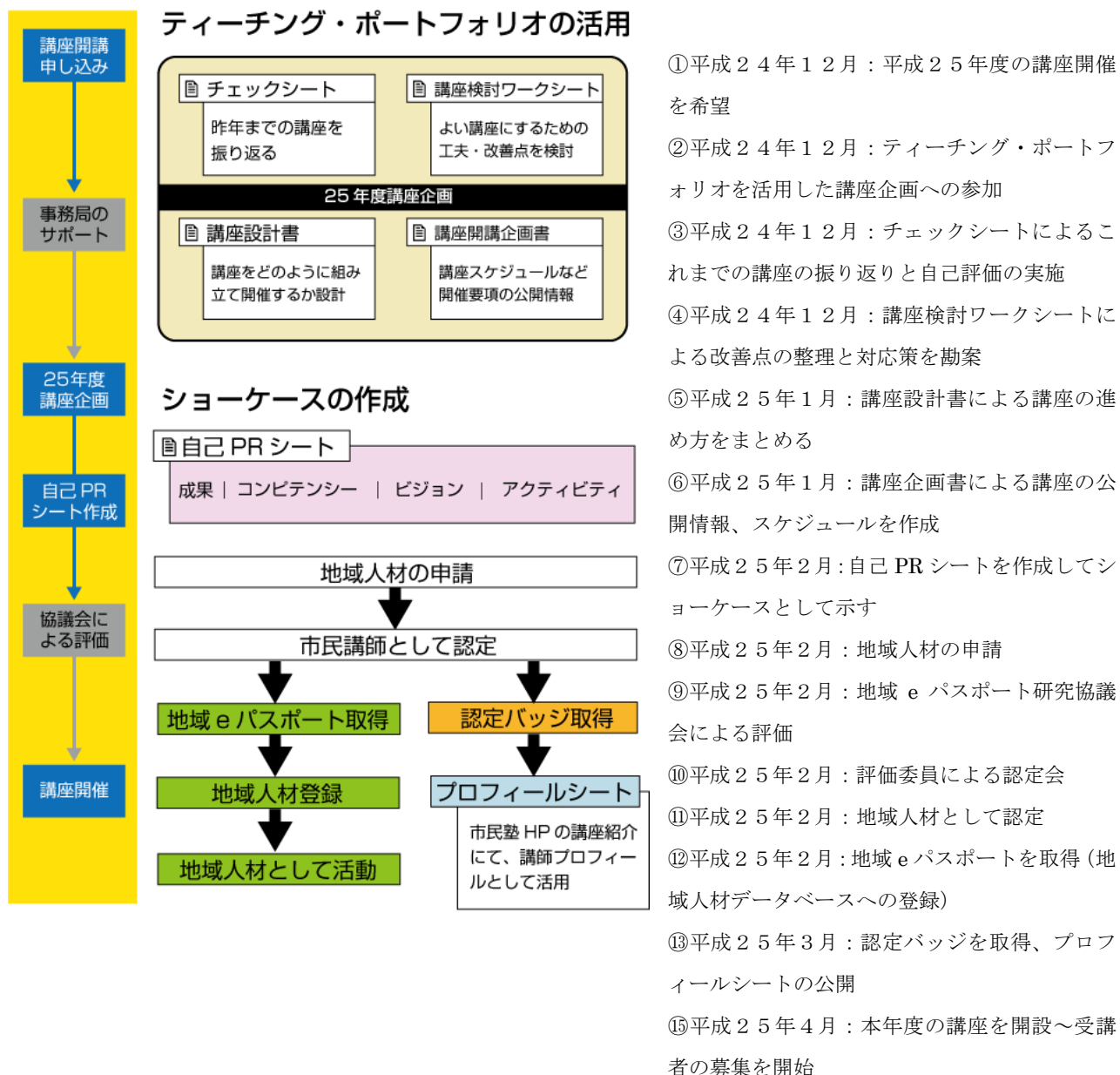
【地域人材の活動支援】

地域 e パスポート研究協議会では、平成 23 年より地域人材として「ICTふるさと学習推進員」も認定してきた。ICTふるさと学習推進員はふるさとをテーマにした学習活動の講師、またはコーディネータとして活動を主催し、ICTを効果的に活用して活動を推進する人材である。

地域 e パスポートを取得した ICTふるさと学習推進員は、地元の公民館と連携した学習活動を希望しており、地域 e パスポート研究協議会では富山県公民館連合会、富山県民生涯学習カレッジ、富山インターネット市民塾の生涯学習機関と連携して、地域人材と公民館のマッチングな

どコーディネートを実践して、地域人材の活動支援に取り組んでいる。

【参考】 本事業の今年度の実施全体像（富山）は、以下の図のとおりである。



2-3 実証評価のためのeポートフォリオシステムの開発

本実証研究及び評価を実施するにあたり、主に以下の3点の開発を行った。

- ① ティーチング・ポートフォリオ
- ② 認定バッジ、プロフィールシート
- ③ 複数地域でのeポートフォリオの活用

【ティーチング・ポートフォリオ】

市民講師が開講する講座の企画、運営のために作成したティーチング・ポートフォリオをeポートフォリオに登録し、随時、参照することができる。講座の企画段階や、講座の実施時に、講座について振り返りやすいよう、市民塾システムにログインした際に表示されるマイページにティーチング・ポートフォリオを表示する。

The screenshot displays the user interface of the e-Portfolio system. At the top, there is a header with the text 'インターネット市民塾' and 'とやまインターネット市民塾で 学ぶ・つながる・ひろがる'. Below this is a navigation bar with tabs for 'マイページ', '講座', 'サークル', '学びの和', 'ポートフォリオ', and '担当講座'. A search bar and a calendar are also visible. The main content area is divided into several sections. On the left, there is a 'NO IMAGE' placeholder for a profile picture. In the center, there is a '講座企画' (Lecture Planning) section, which is highlighted with a red box. This section contains a list of lecture planning tasks, including '講座設計書', '講座検討ワークショップ', '講座チェックシート', and '講座企画書'. On the right, there is a '担当中の講座' (Lectures Being Taught) section, which lists various lecture materials and dates.

ティーチング・ポートフォリオの蓄積一覧

【認定バッジ】

地域人材が主催する講座の講師紹介画面や、地域人材のプロフィール画面等に、地域eパスポート研究協議会より地域人材として認定を受けたことを示すバッジを表示する。地域eパスポート研究協議会が地域人材として認定を行っている「市民講師」「ICTふるさと学習推進員」「eメンタ」等、地域人材ごとに名称が記された認定バッジが用意されており、地域人材としてどのような活躍ができるのか、参照することができる。

認定バッジにより地域人材であることを示すことで、「市民講師」として認められた地域人材が主催する講座であれば講座の質が期待でき、「eメンタ」が参加していれば、講座の進行に対してサポートが期待できる。

【平成25年度】立山カルデラ・砂防探求会
[ふるさと塾]

⇒ 講座紹介
⇒ 講座の感想・おすすめ
⇒ スクーリング情報

申し込み受付中です



[ふるさと塾]

【平成25年度】立山カルデラ・砂防探求会

世界一のスイッチバック「トロッコ」乗車体験！

今年立山カルデラ砂防体験学習会でも人気のトロッコ乗車体験を予定。砂防工事用資材と作業員を運ぶ重要な手段「トロッコ」はカルデラの安全を保持してきた立役者です。立山カルデラ砂防探求会では取材に基づいた教材を使った事前学習と現地へ足を運び肌で感じるスクーリングでカルデラの魅力に迫り、立山の自然文化を学びます。

★ 講座アピール

年に一度は現地に足を運んで、目と肌で体験します。(スクーリング)

スクーリングは立山カルデラ砂防博物館主催の「立山カルデラ砂防体験学習会」に各自が個別に応募します。人数が限定されるため定員オーバーの場合抽選となる場合があります。応募手引きはサークルの掲示版に案内します。

トロッココースは人数(最低10名)がまとまれば、団体でのツアーを企画します。

★ 講座詳細

ジャンル	ふるさと塾、25年度講座
先生の紹介	  
開講期間	2013年04月01日～2013年12月31日
申込期間	2013年03月31日～2013年06月30日
定員	20名
受講料	無料

図 8 講座講師の認定バッジ表示

* 講座詳細	
ジャンル	ふるさと塾、25年度講座
先生の紹介	   <p>【地域人材:市民講師】 自らの経験や知識・技術を伝承する講座を企画し、インターネットを活用した学びの場をとおして、地域課題の解決や地域コミュニティの活性化に寄与する地域人材として認定します。 [地域e/パスポート研究協議会] http://toyama.shiminiuku.com/epassport/</p>
開講期間	2013年04月01日 ~ 2013年12月31日
申込期間	2013年03月31日 ~ 2013年06月30日

図 9 地域人材「市民講師」についての解説

【プロフィールシート】

自己 PR シートをもとに、自身のこれまでの成果や実績、これからの活動に対する抱負や活動内容等をプロフィールシートとして作成、公開することができる。プロフィールシートは主催する講座から参照できることから、受講希望者に対する講座の PR や、受講者が講師について理解するための情報となる。

立山カルデラの自然の麗麗と砂防の歴史を学ぶ

魅力ある自然文化を数多く保有する我が郷土。特に立山黒部アルペンルートは世界遺産登録への運動も盛り上がり、自らも講師活動を通して立山カルデラと砂防の魅力を伝え共有することで、この運動に少しでも貢献者になりたい。また子ども達や地域住民に向けた講演の機会を作るべく活動をPRして身近な自然から学びを広げていきたい。



プロフィール

地域人材認定： 市民講師（2013.03.01）

[地域eパスポート研究協議会](#)

富山県立山町出身。工学系の大学を卒業後、地元の電気機械会社に勤務。2012年3月に定年退職するまで、電気機械の設計業務、品質管理、安全衛生、その他社内教育等に従事する。退職後はボランティア活動とインターネット市民塾の講師として専念。2013年1月より企業コンサルタントとして、安全、作業品質と作業標準書の作成指導に従事現在に至る。



講師歴（富山インターネット市民塾講師）：

2010：「実務書道講座」「QC7つ道具」

2011：「立山カルデラ砂防探求会」
「かな講座基礎編」「新QC手法講座」

2012：「立山カルデラ砂防探求会」
「QC講座基礎編」「立山研究会」

資格・活動：

- ・富山インターネット市民塾講師
- ・ICTふるさと学習推進員
- ・日本科学技術連盟QCサークル指導士
- ・QCサークル北陸支那富山地区OB幹事
- ・東京書道協会実務書道師範
- ・日本書道協会連誼教室講師
- ・労働安全衛生コンサルタント
- ・財団法人花と緑の緑行指導員（GK）
- ・立山カルデラ砂防博物館友の会会員

趣味：

山歩き、園芸、囲碁、書道

3年目を迎える立山カルデラ砂防探求会

今も続く砂防事業は富山平野に暮らす私達を災害から守っています。その恩恵を実感し富山県人の誇りを持ってもらいたく始めた講座では立山カルデラの自然、歴史を学び砂防工事の前後を見学する体験学習会に参加してきました。過去2年で一緒に学んだ30名の方と共に立山カルデラへの関心を更に深め、探求する楽しみを共有することが出来ました。



世界一のスイッチバック「トロッコ」乗車体験！

今年は立山カルデラ砂防体験学習会でも人気のトロッコ乗車体験を予定。砂防工事用資材と作業員を運ぶ重要な手段トロッコはカルデラの安全を保持してきた立役者です。立山カルデラ砂防探求会では取材に基づいた教材を使った事前学習と現地に足を運び肌で感じるスクーリングでカルデラの魅力に迫り、立山の自然文化を学びます。



本講座を主催するにあたり

スクーリングでの実地体験の効果を大きくするために、事前学習となる教材に音声や動画を取り入れて充実を図ります。また掲示板での話題の提供や運用に気を配り交流を促進していきます。受講生の中から幹事役を設け運営体制を強化します。これらを通じて受講生の関心を高めスクーリングへの参加を促し満足度の向上に努めます。



図 10 プロフィールシート

【複数地域での利用】

わかやまインターネット市民塾にて、eポートフォリオを利用できるよう整備を行った。eポートフォリオにて活動記録、学びの貯金箱（活動実績）、目標の登録、コンピテンシー分析、ショーケースの作成等、富山インターネット市民塾と同じ機能を利用することができる。

The screenshot shows the 'wakayama.shiminjuku.jp' website. The main navigation bar includes 'マイページ', '講座', 'サークル', 'マイフレンド', and 'ポートフォリオ'. The 'ポートフォリオ' section is active, displaying the 'マイポートフォリオ' page. The page is divided into two columns of content. The left column includes sections for 'アドバイス', '活動の記録', and '学びの貯金箱'. The right column includes sections for '長期目標', '短期目標', 'コンピテンシー', 'ライブラリ', and '学びのまとめ'. Each section has a status indicator (e.g., '登録されていません') and a link to create or manage the content (e.g., '長期目標を作成する').

図 11 わかやまインターネット市民塾 eポートフォリオ画面

3 実証研究の評価

3-1 eポートフォリオによる学習の質向上の効果に関する分析・評価

3-1-1 ティーチング・ポートフォリオの活用効果

市民講師による講座・サークルの開催は、例年、前年の12月ごろから開催の検討が始まる。翌2月には企画が固まり4月からの開講に備えている。

市民講師を対象としたティーチング・ポートフォリオの活用では、平成24年度までに開催してきた講座や講演などの活動を振り返り、平成25年度の講座の開催計画に反映する形で取り入れた。したがってPDCAサイクルとしては、これまでの実践活動の振り返り、チェック（C）とこれからの活動に対する改善点の検討（A）、これらを反映した活動プランづくり（P）という部分に活用したことになる。

これまでインターネット市民塾で開催されてきた講座・サークルの中には、受講者との間で学習がうまく進行できない、あるいは受講者の満足度が低く、講師・主催者としての進め方に問題がある例も見られた。また、市民講師がテーマとしたことへの学習ニーズや、参加を募った対象者とのミスマッチなどもその要因として挙げられていた。

本実証研究では、ティーチング・ポートフォリオ活用の意思を示した市民講師19名を対象に、平成25年度の講座開催の企画（活動プランづくり）の中で活用を行い、効果を分析した。

それによると、「これまで開催してきた講座・サークルの成果を再確認することに役立った」が最も多く、次に「問題点を明らかにすることに役立った」、「講座をさらに良くするための改善点を検討することに役立った」が多く挙げられた。また、その改善点として「講座・サークルの進め方」や「テーマや対象者」の検討が挙げられている。

現時点では、ティーチング・ポートフォリオの活用は活動のPDCAサイクルの一部であるものの、市民講師が自らの実践活動を振り返り、その活動をより良くするための改善点を検討することに役立つという評価が得られたと言える。

また、今後、講座・サークルの開催期間を通じて継続的に活用し

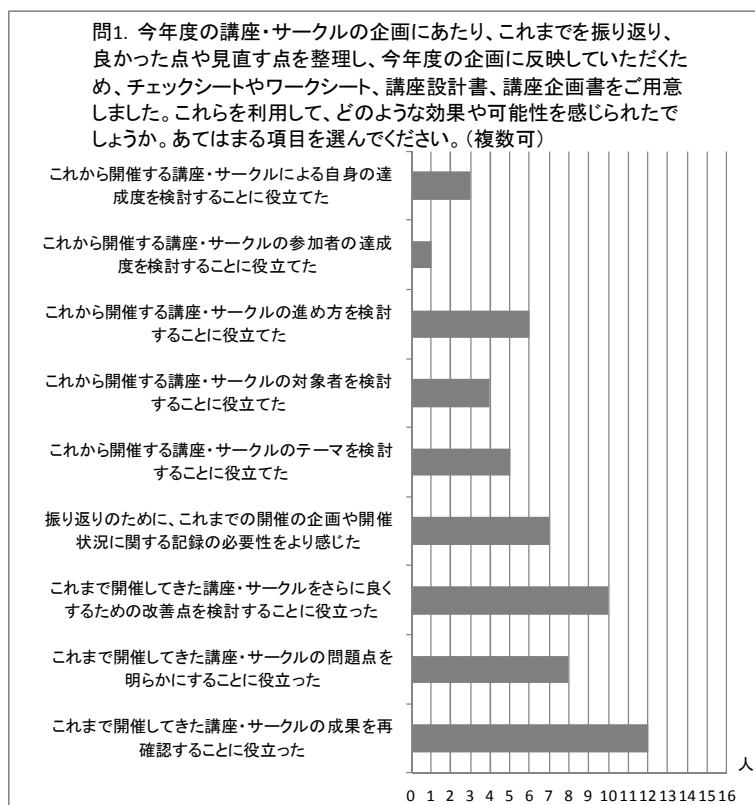


図 12 ティーチング・ポートフォリオの効果

ていくことで、どのような効果を期待できるか確認した。それによると、「講座・サークルの記録による進捗管理や自己評価」、「受講者・参加者の満足度の把握」、「事務局への相談やサポートへの期待」などを挙げ、結果として「自身の達成度や身に付いたことを自己評価」に期待していることが分かる。

このように、市民講師からは講座・サークルの質の向上に役立てようとする積極的な意思を確認するとともに、教育実践活動による「自己成長」を把握することにも期待があることが明らかになった。

一方、関係機関は、市民講師がティーチング・ポートフォリオを活用することによる効果として、「講座・サークルの企画段階から内容を把握し、サポートを充実することへの効果」を挙げ、結果として「市民講師の質の向上」、「講座・サークルの質の向上」への効果を期待している。

平成25年度の講座・サークルの開催はまもなく始まろうとしており、今後、開催期間を通じて活用状況を把握することで、これらの期待に対する効果を継続して測定していく。

3-1-2 市民講師のためのルーブリックの開発に向けて

本実証研究では、インターネット市民塾で活動する市民講師を対象とし、講座の企画段階、開催中を通じて評価と改善を記録し、計画から、評価にいたる講座の質の向上を図るために、ティーチング・ポートフォリオとして活用できるような機能開発を行うことが一つの目的であった。

特に、この研究では、eポートフォリオのショーケース機能を中心として、第三者による適正

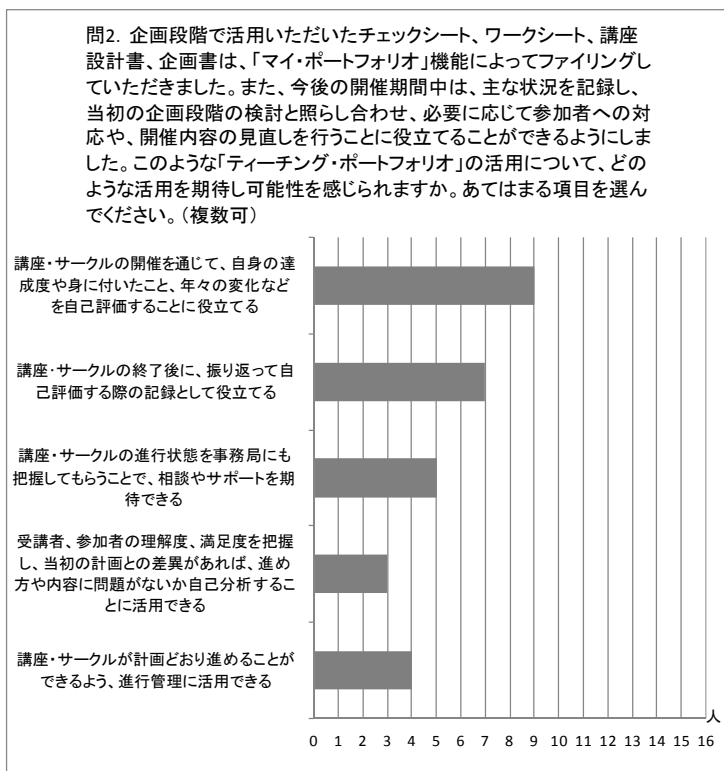


図 13 ティーチング・ポートフォリオの活用の可能性

問1. 今年度の講座・サークルの企画にあたり、市民講師にはこれまでを振り返り、良かった点や見直し点を整理し、今年度の企画に反映していただくため、チェックシートやワークシート、講座設計書、講座企画書を作成していただきました。また、今後の開催期間中は、主な状況を記録し、当初の企画段階の検討と照らし合わせ、必要に応じて参加者への対応や、開催内容の見直しを行うことに役立てることができるようにしました。このような「ティーチング・ポートフォリオ」の活用について、どのような効果や可能性を感じられたでしょうか。あてはまる項目を選んでください。(複数可)

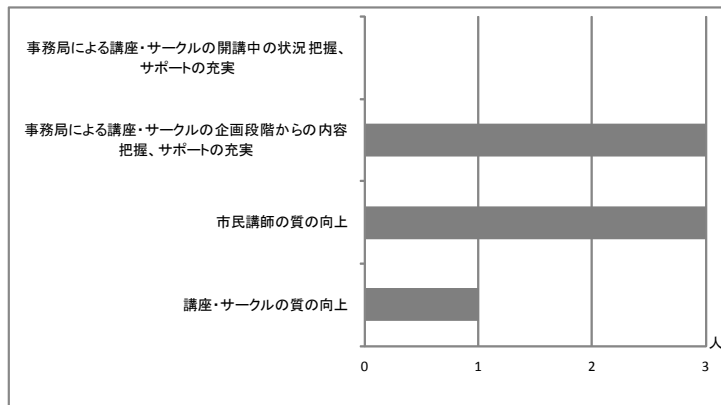


図 14 ティーチング・ポートフォリオの効果
(関係機関からの回答)

な評価が行われるよう、専門家の参画や事例調査を行い、評価基準（ルーブリック）を設計することも大きな目的であった。

ルーブリックとは、第一に、学習内容を示す評価基準と到達水準を示す具体的な評価基準がマトリクス形式で示された指標となっており、第二に、その指標が、学習者のパフォーマンス（学習成果）の達成度合いを示す尺度と、各尺度に見られるパフォーマンスの特徴を説明する記述語からなる段階的な評価を含む、達成目標を含んだ学習の指標である。

ただ、こうしたルーブリックを直接市民講師に提示しても、直観的な理解が得られない。そこで、本研究では、まず、市民講師に講座の企画段階において、講座チェックシートや講座検討ワークシート等を記入していただくことで、過去の自分の講座を振り返り、改善の方策を考えるきっかけ作りから行った。

そのチェックシートやワークシートでは、ルーブリックの構成の第一段階として、

- ① 企画（過去の成果のふりかえり、効果的な目標の明確化などを通した長期目標の設定）
- ② 実践力の向上（キー・コンピテンシーである自律的な計画力、資料やITの道具活用力、人間関係力の認識と展開）
- ③ 実際の取り組み（講座内容についてのふりかえりや受講者のニーズの分析、具体的な受講者の学習目標の設定など）
- ④ 学習成果の評価活動（受講者の満足度評価、達成目標の明確化、新たな目標の設定）

といった順に、講座の企画から、受講者の学習成果の評価にいたるまでの、市民講師の教授行動にしたがって、学習内容を示す評価基準と到達の水準を示す評価基準を設定した。

今後は、ルーブリックのもう一つの基準である達成水準の指標化を進めることが課題である。

表 2 市民講師のためのルーブリックの評価項目

評価領域	ルーブリック（学習目標）	評価基準
長期目標 （市民講師としての計画力）	効果的な目標の明確化	市民講師として目指している目標は、どのような背景や必然性、効果があるか、具体的に示されているか
	自己の社会的役割の認識	市民講師として目指している目標について、自身取り組む動機、役割が具体的に示されているか
	過去の成果の活用	目標に掲げたことが、これまでの自身の成果・実績をどのように生かすか示されているか
	具体的な計画作成力の向上	目標達成への道筋（ステップ、期間、協力者等の体制づくり等）が示されているか
実践力（市民講師としての力の向上）	道具活用力の向上	インターネット、ICTを効果的に活用した講座のデザイン、進め方が示されているか
	人間関係力の向上	講師と学習者の関係づくり、学習者間の学びあう関係づくり、チームワークなどをどのように作るか示されているか
	計画の実践力の向上	受講者・参加者の状況を把握し、また自身の状況を考え、計画通り講座を進める工夫が示されているか
	資料の活用力の向上	受講者に分かりやすい教材の作成、資料の用意、それらの著作権等への配慮が示されているか

取り組み(講座の成果の設定の評価)	学習成果の活用	開催講座(活動)のテーマについて、成果をどのように生かすかが示されているか
	学習内容と受講者の分析	開催講座(活動)のテーマについて、ニーズをどのように分析し対象者をどのように設定したか示されているか
	学習目標の効果の設定	開催講座(活動)によって、目標に掲げたことにどのように効果が得られるのか示されているか
	具体的な学習成果の設定	開催講座(活動)によって、参加者にどのような結果(理解、事後の活動等)を得ることができるか示されているか
成果(これまでの学習成果を活かした目標の設定)	地域住民のニーズへの対応	これまでの活動におけるテーマが、地域住民のニーズや社会の課題に、どのように応えるテーマだったかが示されているか
	参加者の満足度の把握	これまでの活動における参加者の満足度を把握し、その達成度が示されているか
	自己の新たな目標の明確化	これまでの活動における自身の学び、その満足度、新たな目標に結びついたことが示されているか
	実践的な資格・スキル等の取得	講座の開催、講演、講師活動等の実績や実践機会に結びつく資格、スキル、特技等が示されているか

3-2 学習成果の評価の社会的通用性に関する分析・評価

3-2-1 評価基準の通用性と課題 -ショーケース機能を中心として

(1) 評価の観点

本実証研究では、地域人材として市民講師の評価認定を行うための評価シートが作成された。

評価の対象となったのは、一般にeポートフォリオでは、ショーケースと呼ばれる部分であり、本事業では、「マイ・ポートフォリオ」の中にある「自己PRシート」である。自己PRシートは、活動の成果、コンピテンシー、ビジョン、アクティビティ、プレゼンテーションの5つの要素から構成されている。したがって、評価にあたっては、それぞれの項目に応じて、下記のような観点を採用している。

評価の項目	評価の観点	評価の資料
活動成果	テーマと開催意義、市民や社会のニーズ、自身や参加者の達成度	自己PRシート＋ 講座チェックシート 講座検討ワークシート 講座設計書 講座開講企画書 (日程や公開情報)
コンピテンシー (IT 活用力、自律性、 人間関係力)	開催方法、講座の進め方、参加者とのコミュニケーション、ICTの効果的な活用、「コンピテンシー・チェック」による自己分析	
ビジョン	背景、動機、目標、自身の役割、外部への期待、もたらす効果	
アクティビティ	ビジョンとの関連性、実際の取り組み内容	
プレゼンテーション	総合評価	

また、具体的な評価の資料としては、自己PRシート全体が対象となるが、それに加えて、講座の企画や設計のために作成された、チェックシート、ワークシート、講座の設計書、企画書の内容が評価委員に示されている。

評価委員としては、それぞれの資料に目を通して、市民講師が企画し、実践する講座について知る一方、もし、講座の受講生や受講前の学習者であるなら、どのようにこの企画を評価するかを考察しながら、評価を行った。

とりわけ、今回のeポートフォリオの市民講師向け講座において、重要な評価の基準は、このeポートフォリオを用いることで、どれだけ講師としての力量を高めることができるかという点である。

本実証研究の人材の評価基準の適用可能性を検討するために、ヨーロッパにおける成人学習の指導者の評価基準を参考にしたい。ECが提言した生涯学習のキー・コンピテンシーの提言を受けて、EU各国では、学校教育を含む生涯学習の分野でも教育人材の評価基準の提言が行われている。こうした人材の評価基準は、ヨーロッパ資格枠組みとの関連性を考慮しながら、評価の基準が考えられている。ここでは指導者の評価基準として、特に、オランダの民間調査会社がECより委嘱されて行った研究成果『成人学習の専門的指導者のキー・コンピテンシー』(2010)を参

考にして今回の事業の評価基準の適用可能性を検討しよう。同報告では、成人学習指導者のキー・コンピテンシーとして、汎用的コンピテンシーと二つの専門的コンピテンシーの基準を提言している。

そこでは、汎用的コンピテンシーとしては、

- G 1. 指導者自身が自律的な生涯学習であること
- G 2. コミュニケーターであり、チームプレイヤーであり、ネットワークカーであること
- G 3. 成人学習の発展のために責任を持つこと
- G 4. 研究と実践の分野のエキスパートであること
- G 5. 多様な学習方法やスタイル、技術を備えていること
- G 6. 動機付けの提供者たること
- G 7. グループの同質性や多様性を扱えること

の七つの基準をあげている。

また、専門的コンピテンシーとしては、学習プロセスに直接関わる力と学習過程を促進する力の二つを提案している。

学習プロセスに直接関わる専門的能力としては、

- B 1. 成人学習者の学習ニーズのアセスメントができること
- B 2. 学習プロセスを計画できること
- B 3. 学習プロセスの促進者であること
- B 4. 学習プロセスの評価者であること
- B 5. 助言者、カウンセラーであること
- B 6. プログラム開発者であること

の6つの基準があり、

学習プロセスを支援する専門的コンピテンシーとしては、

- B 7. 財政的な責任を負えること
- B 8. 人間関係のマネージができること
- B 9. 一般的なマネジメントができること
- B 10. 広報とマーケティングができること
- B 11. 行政課題を支援できること
- B 12. 積極的なICTの活用者であること

の6つをあげている。

これらの基準の中には、今回用いた評価基準がいくつか含まれている。

まず汎用的コンピテンシーについては、G 1、G 2 コミュニケーターであることや、G 4～G 6 は、今回の基準でもチェックしている。しかし、グループの同質性や多様性を扱えることについては、受講者の多様性への配慮といった程度の項目にとどまっていた。また専門的コンピテンシーのB 1～B 6については、講座チェックシート、検討ワークシート、設計書、企画書が評価基準となった。B 8，B 9，B 1 2 も含まれている。しかし、他方で、財政的な責任や行政課題の支援といった基準は含まれていない。

ただ、今回の実証研究では、EUの評価基準にみられないようなビジョンや活動成果といった広い教育的観点からの評価基準を設定していることは特筆すべきであろう。

(2) ティーチング・ポートフォリオの観点

大学等の教育機関では、教育機関のポートフォリオとして、学習者向けのラーニング・ポートフォリオと、教授を行うものためのティーチング・ポートフォリオがある。この市民講師向けのeポートフォリオは、ティーチング・ポートフォリオに当たるものである。

ティーチング・ポートフォリオは、講座や授業を行う教育者（教師や講師）が利用するものであり、教育者の教育力の向上にとって有効なツールとしての働きを持っている。つまり、紙ベースのポートフォリオが教育者の能力や専門性の成長に役立つ以上に、電子ツールとしての機能を果たすことが期待されている。その有効性としては、①評価者に教育者の専門性を示す、②他の教育者との知識やスキルの共有化が行える、③教育者としての教材や専門的知識・スキルの電子的蓄積を図る、④受講者や他の教育者、評価者とのスムーズなアクセスやコミュニケーションを図る、などがある。

教育力の向上にあたっては、米国の例では、教師のスタンダードを設定し、そのスタンダードをどれだけ満たせるかを、教育力向上の目標としている。例えば、米国の **New Teacher Assessment and Support Consortium (INTASC)** によれば、教師には、次の10のスタンダードが必要であるとしている。

1. 教育内容の知識
2. 人間の発達と学習についての知識
3. 受講者の学習ニーズに合った適切な指導内容
4. 多様な指導戦略
5. 教室での動機付けとマネジメントスキル
6. コミュニケーション・スキル
7. 指導計画設定スキル
8. 学習者の学習のアセスメント
9. 専門的な自覚と責任
10. パートナーシップ

この各水準は、市民講師の場合もまた市民の教育活動に従事するものとしては当てはまると考えられる。したがって、eポートフォリオのティーチング・ポートフォリオへの活用にあたって

は、eポートフォリオを、教育者の専門性の理解、自己理解の発達、専門的知識やスキルの成長の設計、全体的な教育者としてのアセスメントといった視点から、上記のスタンダードが満たされるようにポートフォリオが設計されていく必要がある。

この点について、今回の市民講師の評価にあたっては、eポートフォリオのショーケース（自己PRシート）に記述された内容を中心に、富山では、チェックシート、講座検討ワークシート、講座設計書、企画書の4つの資料の記述によって判断し、その教育力の評価を行った。そのプロセスでは、市民講師自身による記入作業そのものが、講師の自己理解力の向上や専門性の自覚と責任など上記のスタンダードの各項目の自覚をもたらす効果をもたらしている。ただ、和歌山の事例では、ショーケースのみによる評価ではあったが、評価者の資料として、4つの補助資料が提供されており、ショーケース評価のコメントを見る限りでは、やはり上記のスタンダードを前提とした評価が行われている。

（3）生涯学習機関における通用性

したがって、今回の実験で開発されたeポートフォリオとその補助教材は、学校教育におけるスタンダードを反映した内容となっている点では、生涯学習機関においても基本的な通用可能性を有していると考えられる。ショーケースを通じて、地域の学校教育、社会教育、大学、社会教育機関が市民講師を地域人材として認定していくにあたっては、その評価機能を継続することによって、市民講師の力量を高めているプログラムとしての有効性が期待される。ただし、和歌山の事例ではあまり利用されなかったが、富山の事例で活用された4つの補助資料については、自己PRシートと同様に、紙媒体だけではなく、電子的な利用ができるような工夫が図られていく必要がある。

特に、学校教育の場合と異なり、生涯学習機関の場合には、講師の力量が、入門クラスから上級クラスにまで至るため、講師の教育力の格差や学習者の学習力の格差が大きくなる。さらに、生涯学習の学習領域の広がり、教育内容や教育方法の多様性をもたらしているため、より専門的な内容の場合、あるいは逆により初歩的なクラスの場合にこの一般的なポートフォリオのフォーマットが可能かどうかは、さらに多くの講師への適用を図ることで改善がなされていく必要がある。

とりわけ、テクノロジーの進歩によって、各種のソーシャルメディアが学習に活用されている現状の研究を継続し、eポートフォリオの改善を行っていく必要がある。

（4）複数地域での通用性

今回、県域を越えた運用モデルの通用性を検証することを目指し、わかやまインターネット市民塾に対して、eポートフォリオシステムの導入を行った。富山インターネット市民塾と同じ生涯学習ICTプラットフォームを活用し、社会教育・生涯学習の地域基盤を構築しているわかやまインターネット市民塾に対しeポートフォリオシステムを導入することにより、両地域間の運用モデルの通用性を検証した。

特に、わかやまインターネット市民塾の特徴は、講座の内容を市民活動として位置づけている点にある。「市民の力わかやま」というNPO法人が市民塾の母体として活動している。その認

定会でも、評価の視点として強調されているのが、講師の多様性であり、講師の評価自体が十人十色の視点から行われる必要があるという点であった。

確かに、農業講座から、オーガニックといった和歌山独自の講座もあるが、他方で、コミュニケーション・スキルやIT講座もあり、講座内容は多様性に富んでいる。しかし、そこで行われた評価のコメントをみると、やはり、各市民講師が独自の教育活動を行っている一方で、評価者のコメントが入ることで、講師の自己理解や専門性の向上への機会が提供されている。講師としての気づきや意欲、個人的な教育活動から、いっそう社会的な教育活動への講座内容の展開が、このティーチング・ポートフォリオの導入によってなされていく可能性がある。講師自身による閉ざされた教育活動ではなく、教育活動の内容を共有化し、他者の評価を受けることによって、開かれた教育活動へ展開できる可能性がそこにはある。

とりわけ、和歌山の活動が、市民の力の社会化にあるとすれば、富山以上にeポートフォリオの活用によって、教育力の向上を市民力の向上や、社会活動への発展へとつなげていく必要があるだろう。

この点については、eポートフォリオの機能を、教育者の教育力や学習者の学習力の向上だけではなく、市民活動への展開を見据えた生涯学習活動に応じたものとして開発していくことが望まれる。

3-2-2 評価体制の通用性

評価は生涯学習・社会教育の今後の発展に向けた関係団体の連携・協働を視野に入れ、富山インターネット市民塾推進協議会、富山県民生涯学習カレッジ、富山県公民館連合会、富山県教育委員会県立学校課、富山県教育委員会生涯学習・文化財室、富山大学などの関係機関の代表者から構成された。

ここで、富山県民生涯学習カレッジは、富山県教育委員会生涯学習・文化財室の所轄のもと、県民一人一人が生涯を通じて楽しく学び、学習成果を生かして自己実現を図る、ふれあい豊で活力ある社会の創造を目指して、県内4地域の地域学習サービスセンターを統括し、広く生涯学習講座を開講している。富山県公民館連合会は、市町村その他一定区域内の住民のための教養の向上、健康の増進等、広く生活文化の振興と社会福祉の増進を目指して設立された県内公民館の活動を束ね、各地の公民館活動の情報を共有している組織である。また、インターネット等情報通信技術の教育利用の専門家として、富山大学の当該分野の専門家にも評価に加わってもらった。

評価は、前述されているように、地域人材としての認定を受けようとする申請者のショーケースをネット上で閲覧し、活動の成果、講座運用のための実践力、今後の講座開設へのビジョン、学習成果をどのように生かすか、取組へのアピールなど、4項目16観点による観点別評価基準と総合評価に基づき行われた。特に、地域人材としての認定ということで、講座のテーマが、地域住民のニーズや社会の課題に答えるテーマになっているか、講座への参加者の学習への達成感・満足度を意識しているか、地域課題の解決にビジョンを持った取組になっているかなど、学びと交流を深めながら地域課題の解決に向けた協働的取組みになっているかなどが、申請内容を評価基準に照らして厳密に評価できる専門的知識や生涯学習の経験豊富な評価委員によって評価

体制が構築された。

この評価体制で、富山インターネット市民塾や富山県民生涯学習カレッジは、生涯学習に関わる地域人材を育成する立場から、また、富山県公民館連合会や教育委員会にあっては、地域の絆作りや地域課題解決に向けた地域人材を活用する立場、さらに教育委員会にあっては、学校教育における地域学習に有意な外部支援人材を求める立場で、それぞれ、地域人材育成と活用という立場の違いがあっても、評価基準や評価体制を公的に共有することで、地域における評価の信頼性や通用性を高めることが可能となった。

3-2-3 地域人材認定の通用性

地域人材認定は、従来の各生涯学習機関での学習証明書や修了書ではなく、地域の生涯学習機関が連携・協働して地域人材認定のための講座開設、評価認定、認定結果の各組織での情報の共有を行うというものであった。

今回の認定講座においても、公民館連合会からの受講者や講師として公民館活動に精通した講師による地域課題解決に向けた取り組みのあり方、インターネット市民塾からはインターネット等情報通信技術を生かした講座や情報発信に関する内容など、各機関の特色を生かした講座の開設であった。このような連携は、学習者の地域課題への理解を広めるのみならず、インターネット等の情報通信技術を学ぶ上でも効果が期待できる。

関係団体によるアンケート結果からも、講師の質の向上とともに、

- ・ 学習成果を多様に活かそうとする人材の存在を明らかにできる
- ・ 地域人材の認定による情報共有が進むことで、関係機関が連携した活動の機会づくりの可能性が広がる
- ・ それぞれの社会教育機関が求める地域人材の登用が容易になる

等の効果が期待された。

しかしながら、今回の実証実験においては、地域人材認定としての地域 e パスポートの発給母体は、研究組織としての「地域 e パスポート研究協議会」であった。生涯学習関連団体にあつては、実験段階ということで、まだまだその認知度は低く、地域人材としての認定パスポートの社会的通用性は必ずしも高いとはいえない。今後は、例えば、富山県という地域であれば、公的機関としての富山県民生涯学習カレッジ等、公的機関がその認定母体になることが社会的に通用性を高めることになる。社会的認知度や通用性が高まることで、認定を望む生涯学習のリーダー的役割を担う地域人材が増えるであろうし、認定を受けた地域人材の活躍の場も広がることを期待できる。

3-3 学習成果の活用の促進に関する分析・評価

3-3-1 人材の顕在化、活用機会を促進する効果

学習成果の活用の促進は、市民・学習者側と支援する関係機関側の両面で考えていく必要がある。

(1) 学習成果の活用意識と課題

市民・学習者は必ずしも自らの経験や学びの積み重ねを学習成果として捉えているとは言えない。これまでの経験や学びの蓄積を、多様な視点で社会に役立てようとする振り返りの機会が重要である。また、知識として知っていることを実際に役立てるための実践力（コンピテンシー）も求められる。さまざまなケースに応じて人との関係を良好に作り、計画を立て、課題を解決しながら目標に向けて進める力は、実践力として重要であり、市民講師にも当てはまる。市民講師が自身の実践力を把握し不得手な部分は何か、それをどのように補うか、自己理解が重要となるが、多くの市民・学習者は自己理解を深める機会は少ない。

このため、せっかく良い経験、良い学びを蓄積しながらも、その成果を生かす意識、生かす力が必ずしも十分とは言えず、意識啓発や自己理解の機会としてeポートフォリオによるリフレクション（振り返り）の効果に期待される場所である。

さらに、社会に役立てようとする目標やその根拠となる実績、取り組み等を他者に分かりやすく説明することも重要である。諸外国では元来、自己説明意識が備わっていると言われるが、日本では必ずしも積極的とは言えない。

(2) 学習成果の活用を支援する社会教育機関等の課題

各地の公民館や図書館、博物館、青少年教育施設、生涯学習センターでは、多様な学習機会を提供している。社会教育調査では、公民館等の社会教育関係施設が提供する学習機会は平成7年と平成19年を比べると、2倍弱増加している。

これらの学習機会の中では、住民の地域社会への貢献やコミュニティづくりへの意識の涵養、地域独自の課題や公共の課題への対応も行っている。

一方、住民自らが学び合い、NPO組織やボランティア団体などが地域における多様な課題に取り組む活動も高まっている。

これらの背景の中で、中央教育審議会生涯学習分科会では「依然として多くの公民館等の社会教育施設では、それぞれで完結した自前主義から脱却できておらず、多様な主体との連携・協働が必ずしも十分に行えていない」ことを指摘している。同報告では、「地域住民による活動のリーダーとなる人材の育成と、社会教育主事等の専門的職員による地域人材のコーディネート体制の構築」を今後の社会教育の重要な役割としている。

本調査研究では、富山県民生涯学習カレッジや富山県内の公民館における、これらの状況についてヒアリング調査を行っている。その中では、NPOや地域の活動組織およびこれらの地域人材

との連携を進めているところとそうでないところがあった。住民への学習機会の提供に力を入れている一方、住民による学習や地域活動を支援するための、地域人材・地域組織のコーディネーター、ファシリテーションについては必ずしも十分ではなく、その理由として人的体制の問題などを挙げている。また、地域人材・地域組織の情報に関する公民館等の共有はあまり進んでおらず、これらのコーディネーターがあまり進まない現実もある。

(3) eポートフォリオ、eパスポートの活用効果

このような中で、本調査研究では並行して実施してきた「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」とも連携し、地域でふるさと学習を広める学習推進員、学習推進員を支援するeメンタ、自ら住民を集め学習の場を開く市民講師等の人材育成と、その活動支援に、eポートフォリオとeパスポートを活用した実証評価に取り組んできた。これまでの学習成果やそれらをどのように生かすか、ショーケースに示し、これを富山県生涯学習カレッジ、公民館、インターネット市民塾が共に認め合い、地域eパスポートを発行した(図15)。

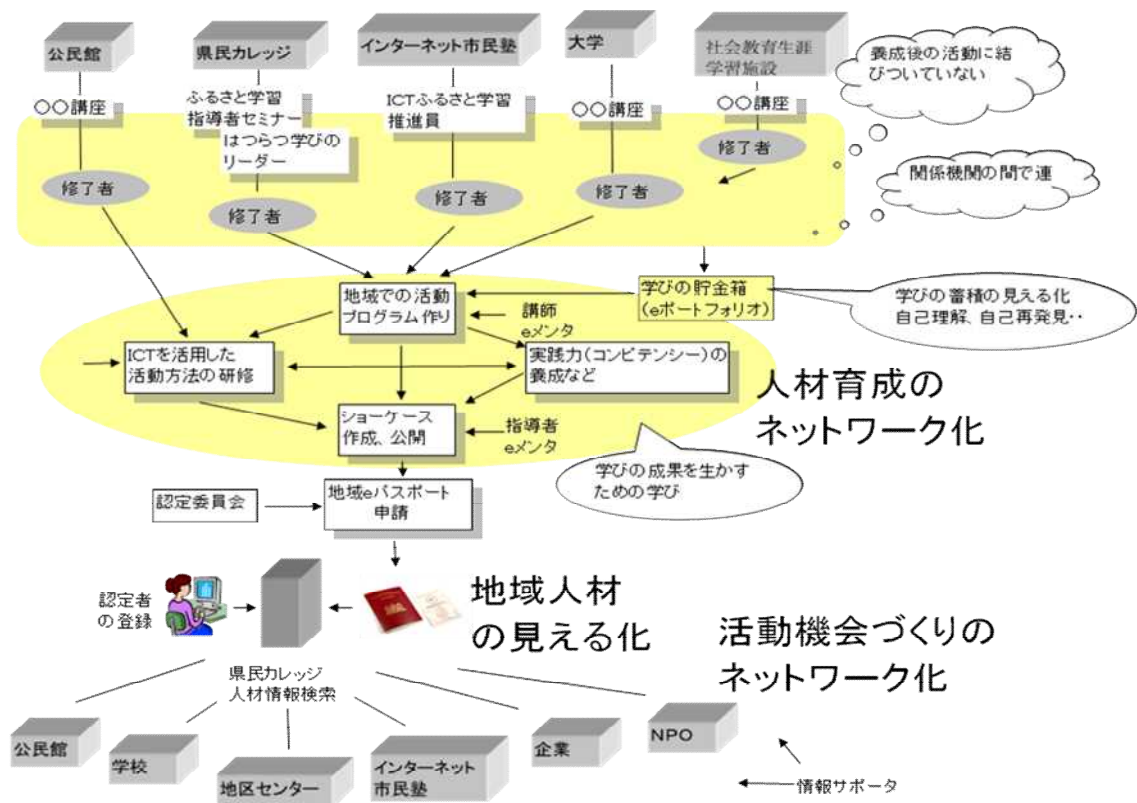


図 15 人材育成と人材の活用機会づくりのネットワーク化

これらの地域人材対象者34名および社会教育関係機関から、地域人材の顕在化に関する効果や学習成果の活用機会促進の効果について、アンケート調査およびヒアリング調査を行った。

まず、地域人材側からは、自身の学習成果を生かしたい目標が明確になったことや、他者に説明するプロフィールを整理することができたなど、学習成果を生かす意識が高まった効果を挙げることができる

また、富山県生涯学習カレッジの人材データベースに登録されたことについて、今後の期待

効果として、公民館等の社会教育施設に活動を知ってもらうきっかけになることを挙げている。これまで学んだことを振り返り、その成果をどのように生かすか、住民自らショーケースに示すことによる効果は、学習者にとっても意識の変化をもたらしている。自らの学びの積み重ねを振り返り、自己評価と他者からのアドバイスを得て、地域活動に役立てるビジョンを作ることを通して、学習成果を活用することに積極的な意識を喚起していると言えよう。このような自己説明意識の喚起が人材の顕在化を促進する一歩となる。

さらに踏み込んで学習成果を生かす機会とのマッチングと、そのための社会教育機関の活動支援の連携に期待していることが分かる。

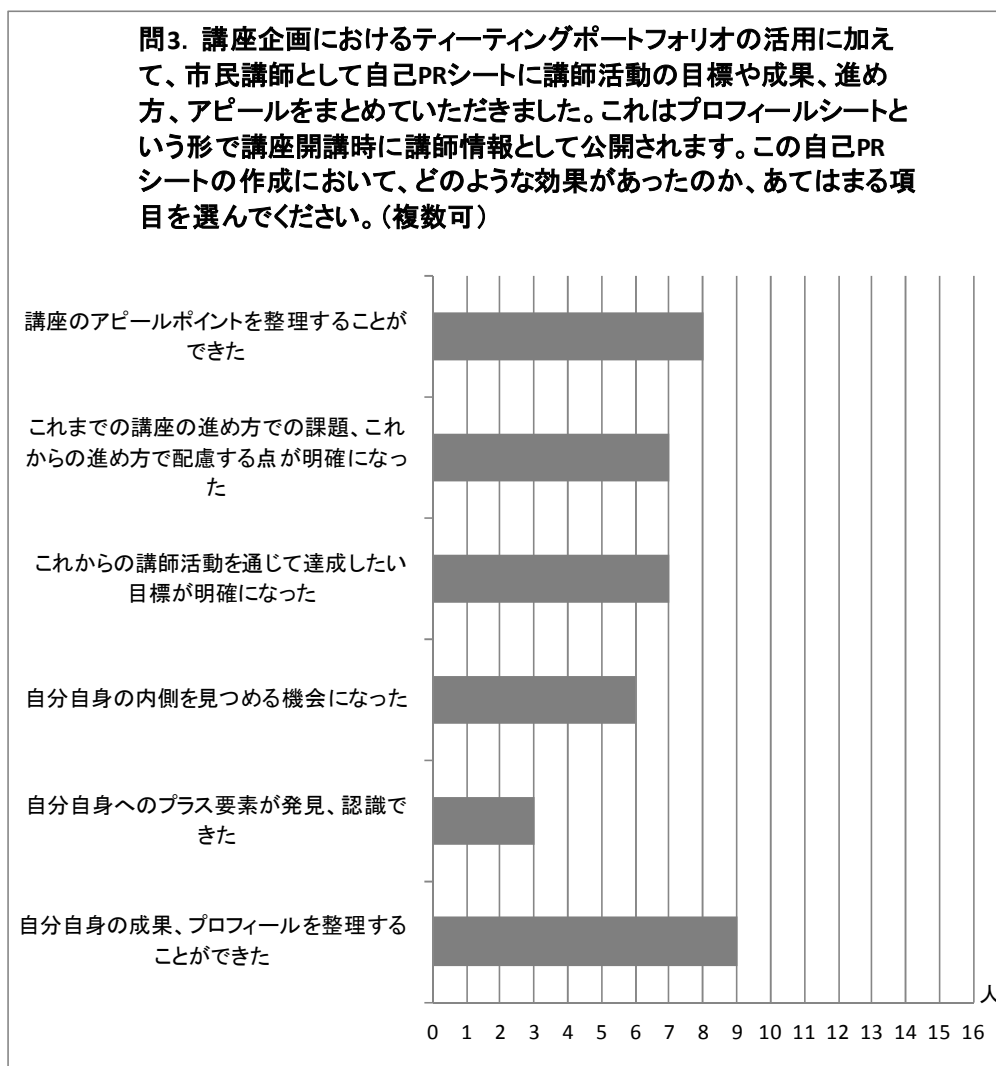


図 16 ショーケース（自己PRシート）作成の効果

問6. 地域eパスポート研究協議会で地域人材として認定されたことで、地域eパスポートホームページや富山県生涯学習カレッジの人材データベースに登録されました。これにより公民館などの地域の社会学習機関から出前講座などの形で要請がかかり、市民塾での活動に加えて、地域での活動機会が広がる可能性があります。この地域人材の認定について、どのようなことに期待できるのか、あてはまる項目を選んでください。(複数可)

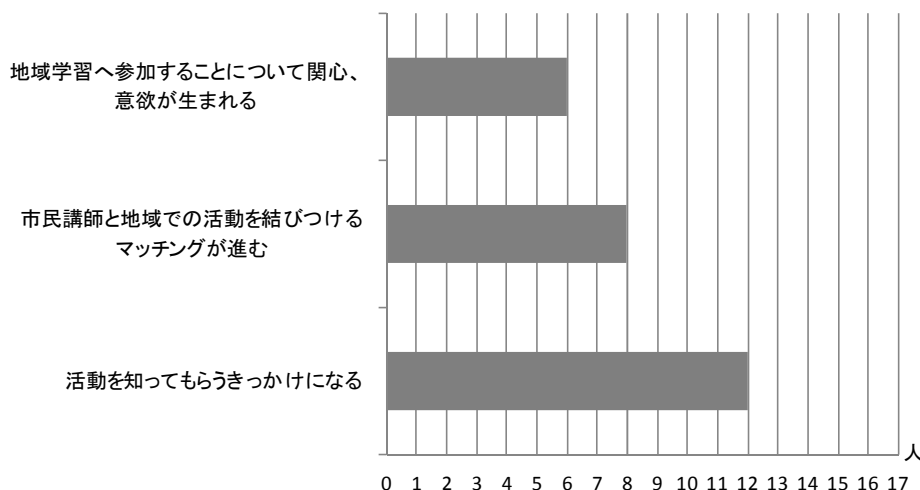


図 17 地域人材の認定に対する期待

一方、関係機関では、地域人材の活動機会情報が共有できることで、各機関が求める人材の活用の可能性が広がることや、地域人材の活動機会のマッチングの基盤ができたことへの効果を挙げている(図17)。

問2. 地域人材(活動希望者)のテーマ、目標、実績など自己PRシートを作成、公開により、多様な人材情報の集約化、発信する仕組みを作りました。また公民館、県民カレッジ、市民塾に活動窓口を設け、地域活動に関する情報を共有して多様な活動を支援していく仕組みを作りました。これらの仕組みによって、地域人材の活動支援にどのような効果が見られるか、また今後の可能性について、あてはまる項目を選んでください。(複数可)

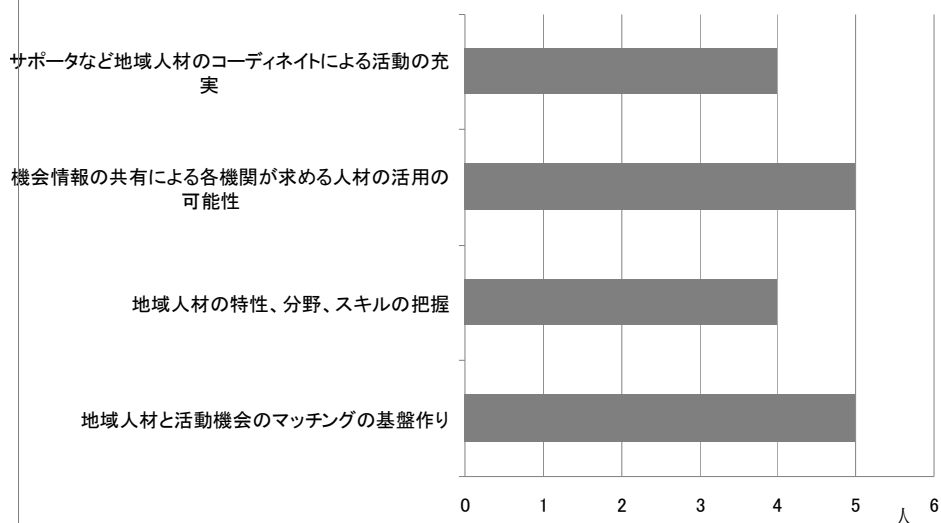


図 18 関係機関における地域人材の活動支援への効果

実際に、地域人材が活動機会に結びつくことに、活動機会のマッチングや人材のコーディネート
の成果が現れ始めている。その具体的な事例として次の二つを紹介する。

ICTふるさと学習推進員（射水市在住）のAさんは、地元で20年間に渡り「塚原歴史の会」というサークルの中心メンバーとして活動している。塚原歴史の会は射水市塚原地区の歴史を
発掘して、地元住民に継承することを活動の目的としている。Aさんはサークルの学習成果を
地元の公民館で発表することを切望していた。

Aさんはこの発表を見据え、インターネット市民塾が開催する、ICTふるさと学習推進員認
定講座（H24.6～8月）を受講した。そこで学んだふるさと学習の意義や地域との関わり方、ま
た映像作りなどを教材作りや発表に生かすことができると考えた。

この間、インターネット市民塾と富山県公民館連合会の間で情報共有し、公民館へのアプロ
ーチについてAさんにさまざまなアドバイスを行っている。

これらをふまえて、Aさんが公民館に対して熱心に働きかけたことにより、平成24年11月
に開催された公民館祭りにて発表が実現した。年間を通してこの地区の一大イベントである公
民館祭りにて、多くの住民の方に知ってもらい発表できたことは、塚原歴史の会にとって誇れ
る実績となった。

また、この模様を収録する人材として情報サポーターのBさんをコーディネートし、紹介番組を
制作。富山市と射水市のケーブルテレビにて放送され、より多くの方に活動が知られるよう
になった。

ICTふるさと学習推進員（滑川市在住）のCさんは、平成24年より滑川の活性化をテー
マとした「滑活交流会」を主催している。地元の方を講師に迎えた講座や自然探索や祭り、ス
ポーツなどの文化イベントを開催して、滑川市民の交流の促進と滑川ファンを増やすことを目
的に活動している。

Cさんはこの活動の運営に役立てようと、インターネット市民塾が開催するICTふるさと
学習推進員認定講座（H24.11～H25年1月）を受講した。

滑活交流会の平成25年度のイベントは、5月から第一弾が始まる予定で、これに先立ってC
さんは地元公民館との連携を強く希望している。平成25年度の活動計画の中にふるさとをテ
ーマにした学習会を企画して公民館との協業を望んでいる。

これらの情報を関係機関で共有するとともに、現在は公民館との交渉準備のため、地域eパ
スポート研究協議会と公民館連合会がコーディネート役となり、Cさんと公民館の調整を行な
っている。

これらは、市民から社会教育施設との連携を望む声が上がったことを受けて、活動を支援した
例であるが、各機関が求める人材とのマッチングも期待される。

活動機会のマッチングのためには、社会教育施設側からの求人情報の一元化も求められると
ころである。この点について社会教育施設へのヒアリングでは、これまではその必要性を感じてこ
ななかったが、今後は重視していきたいとしている。その背景には、それぞれの地域の範囲内で

きる事業、各機関が主催して完結する事業が多いことから、他の機関とこれらの情報を共有する意味が少なかったことが挙げられる。

ところが、平成23年度に富山県民生涯学習カレッジが運営する「公民館学遊ネット」が運用を開始し、富山県内の全公民館のWebページが用意されたことで、他の公民館がどのような事業を行っているか意識するようになったとの声も聞かれた。

高齢化、情報化、国際化など、さまざまな変化の中で、社会教育事業も現代的課題を捉えた多様な人材の活用が求められている。地域内の人材、関係機関主催では対応しにくい事業も増える中、求める地域人材に関する情報共有への意識も高まってきていると見ることができる。その具体例を示す。

富山県立山町では、高齢者、特に男性の引きこもりによる要介護、要支援者の増加への対策として、タブレットPCを活用した介護予防教室を開きたいと考えていた。地域に適切な講師が見つからず、人材を求める情報を発信していた中で、富山市を拠点に、高齢者のICT活用を支援するサポーター活動のリーダーとメンバーを紹介したところ、立山町への出前講座の講師として活動が始まった。

活動では、スマートフォンやタブレットPCを使って、高齢者の興味関心を引き出し、教室への参加を促し、さらには地域の情報への関心を高めようと進められている。

働きながら活動を続けるこのリーダーとメンバーは、富山市での2年間の実践ノウハウを有しており、異なる分野にもかかわらず、立山町にとって重要な地域人材となっている。